



田村のゆめづくり協議会 副代表
岡 登志郎 さん (53歳・上田)

中名田地区のまちづくりに足りないものを考えたときに、保守的な中山間地域の特性で、地区運営は男社会であり、女性の要素が足りないことに気が付きました。地域社会を構成する半分は女性であるのに、このままではいけないと思ったのです。そこで、協議会では女性参画の推進に取り組み始めました。参画してもらうには、女性の負担を増やさずに、まずは「集まれば楽しい」と感じてもらうことから。そして、「こんなことをやってみたい」というようなアイデアが出てくるための環境

づくりを心掛けていきたいです。また、地域づくりとは人のネットワークに尽きるため、人と人のつながりの良さを感じてもらうことが大切です。性急に成果を求めるのではなく、緩やかにでも地域づくりについて理解してもらえようと思います。今後、高齢化が進む中で地区を持続させていくためには、女性の柔らかな発想や意見が貴重であると思っています。やはり、男女では感覚の違いがあり、女性が入ることで地域づくりに良い効果があり、それが地区にとって有益なものになると考えます。

女性の参画は地区にとっても有益

2060年には、人口が2010年の約60%になり、15歳以上65歳未満の生産年齢人口は約50%に、15歳未満の年少人口は約42%になると推計されています。このような未来が訪れたときに、どれだけ地域を支えていくことができるでしょうか。地域活動やまちづくりは、現在の団塊の世代が中心となって活動しているため担い手が多い時期です。一方、これから高齢化が進み若年人口が減少してくると、地域活動を支える人が少なくなってきました。そのため、今後は老若男女を問わず、地域に住むみんなに対応しなければ、地域生活が維持できなくなってきました。私たちの住む地域を次世代の担い手へとつなぎ、持続的に地域を運営していくために、今からできることについて、考えてみましょう。

地域活動への女性参画の現状

現在、地域活動の担い手は男性が中心です。区長（自治会長）に占める女性の割合は小浜市では0.7%（福井県は2.6%）で、全国平均の5.7%を下回っています（平成30年度）。

男女共同参画 × まちづくり

■問い合わせ 市民協働課 ☎ 64・6009

いろいろな人の声を地域活動に生かそう

—男女共同参画で地域活動を—

また、現在活動している社会活動についてのアンケートで、「町内会の活動に参加している」と答えた女性は、男性に比べ割合がかなり低くなっています（平成27年小浜市男女共同参画社会に向けての市民意識調査）。このことから、世帯主である男性が地域活動に出席するという慣例や、地域のことは男性、家庭のことは女性という「性別役割分担意識」が強いと言えます。

持続的な自治会・地区運営のために

それぞれの地区で、どうすれば持続的な自治会・地区運営ができるかを話し合い、その中で「一部の人に役割が集中しすぎているか。女性や若者など新たな担い手が参加しやすい環境づくり」について考えてみましょう。

また、男性も女性も対等な立場で地域活動に参画し、責任を分かち合うことで、より活発的な地域活動が開かれ、地域が活気づくことが期待されます。そのためには、多様な担い手で地域活動を行い、みんなで役割を分担することで、持続的な地区運営を実現させていけるのではないのでしょうか。

男女共同参画社会

「男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会のおよび文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会」のことです。（男女共同参画社会基本法第2条）

固定的な性別役割分担意識

一般的に「男は仕事、女は家庭」と表現されるように、一人ひとりの個性や能力に関係なく、性別によって役割を分担することが当然などとする固定的な意識のことを指します。まずは、この意識に気づき、男性も女性も互いの能力を発揮し合い、喜びも責任も分かち合うことができるよう、私たちの意識を変えていくことが大切です。



内外海まちづくり協議会 副会長
写真右/吉武 みどり さん (60歳・甲ヶ崎)
写真左/泉本 桂子 さん (45歳・阿納尻)

男女に関わらず、ひとりの「人」として発言できる地域に

吉武 平成27年の協議会発足時に、当時の会長に誘われて泉本さんと入会して以来、活動を続けています。内外海地区では以前より、会合などで女性の参加率が高く、民宿業を営む家が多いことから、女性のパワーや実行力が高い地域性であると感じています。

泉本 協議会活動では、普段の生活では会えない人と出会えることが魅力です。自分とは異なる考え方を学べる機会も多く、勉強になります。また、会議などでは意見を前向きに受け入れてもらえるので、発言しやすく今まで続けられました。

吉武 クリーンアップ・ウォーキングや短歌大会などの活動を通じて、素敵な出会いを大きく広げていけるといいなと思っています。また、今年度より女性1人が加わり、さらに充実した活動ができるかと期待しています。

泉本 男女に関わらず、良い意見を持っている人はいます。その違う視点の意見も大事にして、伸びる芽を摘まずに受け入れてほしいと思います。また、地域のための活動に「女性」の意見だから求めるということではなく、ひとりの「人」として発言できる地域にしていきたいですね。